

泉州国際市民マラソン 第16回大会 2009年(平成21年)

SENSHU INTERNATIONAL CITY MARATHON THE 16th CONVENTIONS



16回目を迎えた泉州国際市民マラソンは、全国のフルマラソンおよそ55大会の中で、9市4町の行政組織が協力する地域性が結束した数少ない大会である。沿道の声援もほとんど途切れることなく続き、参加選手の評判も良好である。

今回は、マラソン大会では気温が15度にもなるランナーにとって暑い条件だったが、兵庫県宝塚出身の箱根駅伝ランナー豊田崇（山陽特殊製鋼）が30kmから独走となり2時間18分33秒で初マラソン初優勝した。女子はロキシー・シュミットが2時間47分52秒で2位を9分近く離し、圧倒的な初制覇であった。昨年東京国際2位の加納由里は近くに横浜国際駅伝の参加が予定されていたこともあって30km地点で棄権した。びわ湖毎日マラソンで優勝したこともある小島宗幸（旭化成）は2度目の市民マラソン参加で、参加選手とのふれあいを楽しみながら12位で余裕のゴールだった。

2月15日 日

天 候: 快晴
気 温: 15℃
参加者数: 2,770人
完走者数: 1,961人
沿道人数: 25万人



スタート間もなく最初の折返しに向かうトップグループ



フィニッシュに向かう多数のランナーたち

泉州マラソン400人健闘誓う 開会式



約3000人の市民ランナーが参加し15日開催される「第16回泉州国際市民マラソン」(読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援)。14日、泉佐野市のホテルで開かれた開会式では、14大会連続出場となるシンガー・ソングライターの高石ともよみさん(約40歳)が健闘を誓った。

堺市から泉南市にかけての42・195kmのコースで臨まれ、昨年11月の東京国際女子マラソンで2位の加納由理選手や、2時間8分43秒の自己ベストを持つ小島宗幸選手ら実力派ランナーのほか、地元9市4町を代表し、都市提携する米国や豪州、中国、韓国などの各都市から外国人ランナーも参加する。

開会式では、大会実行委員長(金田通・田尻町長)が「目標の達成を十分に発揮して完走を目指してほしい」と激励。市民ランナーを代表し、入学意欲、前川拓加選手が「早稲の泉州路を力いっぱい駆け抜け、愛と信頼と友好の輪を広げたい」と宣誓した。

友好の外国人ランナーも

約3000人の市民ランナーが参加し15日開催される「第16回泉州国際市民マラソン」(読売新聞大阪本社、読売テレビなど後援)。14日、泉佐野市のホテルで開かれた開会式では、14大会連続出場となるシンガー・ソングライターの高石ともよみさん(約40歳)が健闘を誓った。

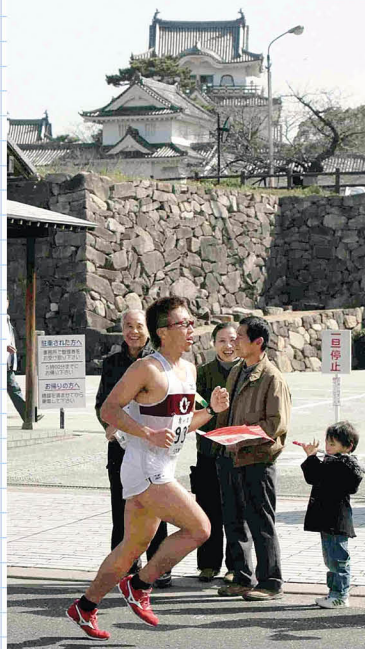
2009年(平成21年)
2月15日付朝刊

折り返しに向かう
ランナーたち



レースは午前11時、堺市西区の浜寺公園をスタート。府道堺阪南線(旧国道26号)を南下して泉南市の梅井浜口交差点で折り返し、泉佐野市のりんく公園のゴールを目指す。ゴール付近では地元の特産品の販売や、ホテル宿泊券などが当たる抽選会がある。

岸和田城前を力走する選手



選手らに旗を振って応援する子どもたち



ゴールした選手にタオルをかけるボランティア



会場に設置されたオーストラリア山火事義援金箱

